

西濃教育事務所 令和7年度 社会科訪問指導の観点

【令和6年度の成果】

- ・単元を通して身に付けさせたい力を明確にし、児童生徒の意識の流れを基に単元の学びをつくっていき、この教師の意図が指導計画から感じられた。
- ・子どもの「主体的な学び」を引き出そうと、教材と合わせ方や発問の工夫、ICTや思考ツールの活用などに焦点を当てた実践が熱心に進められている。
- ・ICTを子どもが活用する授業が増えてきた。活用方法も、単元末にプレゼンを作成したり、タブレット端末に配布した思考ツールを使って考えたりする授業など、効果的な活用がされつつある。

令和6年度の課題

- ・「記録に残す評価」「指導に生かす評価」を位置付けることで、単位時間の役割が明確になっている単元指導計画がみられるようになってきたが、その数は少ない。
- ・課題設定を教師が行う授業、見通しがなく教師の指示ですずと進行していく授業、調べ終わったり、話し終わったりしていても、一斉に進んでいく授業、自己の学びを振り返ることのない授業もある。
- ・未だに一斉指導のみで行われる授業がある。特に、ICTの活用においては、教師の指示のもとICTを使わせている授業がいくつかみられた。



◇令和7年度の訪問指導の戦略

テーマ「資質・能力の育成に向けて、問題解決的な学習が一層充実する指導・助言」

(1) 切実性のある多様な問いが成立する授業の具現

①問いの発見(主体的な学び)

- ・単元、単位時間において強い課題意識(切実性)をもてるようにするための導入の工夫
- ・展開中に生まれる問いを生かす指導の工夫

②問いの共有(対話的な学び)

- ・他者と問いを共有し、多様な立場から多角的に考える「独りよがりではない学び」を生み出す指導の工夫

③問いの深化(深い学び)

- ・従来の一斉授業型を否定するわけではない。若い先生が多いという実態からみても、まずは従来、岐阜県が大切にしてきた社会科授業(人物にスポットを当てた問題解決学習)、主体的・対話的で深い学びをする社会科授業(強い課題意識を生み出す導入→追究の見通しをもつための予想→社会的な見方・考え方を働かせ、課題の答えを資料から見つけ出すための個人追究→仲間と対話し、自分になかった考えを吸収し、自分の意見を再構成するための全体交流→自らの学びを振り返る検証、まとめ)を行えるようにすることも大事。

(2) 「個別最適な学び」「協働的な学び」が一体的に充実する授業の具現

①社会科における「個別最適な学び」「協働的な学び」を一体的に充実させる単元モデルの構想

②「個別最適・協働的な学び」を具現するICT活用

- ・教師が「タブレット端末を使いましょう。」から、児童・生徒が「タブレット端末を使いたい」へ。そのために、日々、資料を自己選択する幅を広げる指導が必要。(社会的な見方・考え方を働かせることにもつながる)

(ex. 「教科書以外の資料にもわかることがあるよ。」「NHK for school に動画資料があるよ。」)

③指導と評価の一体化

○「学習・指導に生かす評価」を明確にした評価の在り方＝毎時間取り組みたい。

- ・指導に生かす評価(評価した結果を指導に生かす)(例)授業の中で児童生徒に即時フィードバックする。
- ・次の時間や次の単元の指導計画の見直し、指導改善を図る。

○「記録に残す評価」を明確にした評価の在り方＝観点別の達成状況が見取れる段階で行う。

- ・全員分記録に残す。(観察の記録、ノートの記述、録画等)
- 単元指導計画の中に、単元を通した指導と評価を位置付けたい。